

高松市生涯学習センター 生涯学習推進事業（他団体との共催事業）

「おこづかいゲーム～お金でできることを体験しよう！～」を開催しました。

平成30年8月9日（木）、香川県金融広報委員会共催のもと、金融広報アドバイザーの山下万里子さんと糸瀬佳滋子さんを講師・スタッフにお迎えし、「おこづかいゲーム～お金でできることを体験しよう！～」を開催しました。この講座は、おもちゃのお金を使って、お金に関するゲームをしながら、子どもたちに賢いお金の使い方やおこづかい帳の書き方を学んでもらうことを目的としています。



まず、ゲームを始める前に、子どもたちに欲しい物を2つ、値段を考えずにおこづかい帳の欲しい物欄に書いてもらいました。そして、値段欄には1番目に書いたものは2千円、2番目に書いたものは千円と設定しました。これから始まるゲームで、おこづかいを上手にやりくりしていきながら、最終的に欲しい物を手に入れてもらいます。

ゲームは、8月1日におこづかい千円を貰うところからスタートしました。子どもたちは親から千円貰い、おこづかい帳に記入します。その2日後、買い物をすることになりました。子どもたちはスタッフとじゃんけんして、その結果で買える物や値段が変わります。じゃんけんの結果で喜んでいる子もいれば、残念がっている子もいましたが、みんな正直におこづかい帳に結果どおりの金額を書いていました。

次に、仕事体験をしました。洋服屋さんで「シャツ作り」にチャレンジしてお金を増やします。まずは、仕事に必要な道具を買うために、子どもたちはお金を入れたお財布を持って、教室後ろにある「お道具屋さん」まで行きました。そこで、折紙セットを購入し、その折紙でシャツを5枚、制限時間10分以内に作りました。5枚完成した子から、出来たシャツを報酬と交換してもらえます。実際の仕事と同じように、決められた時間内に出した結果によって、貰える報酬に違いがあるようでした。子どもたちは少しでも多く報酬を貰えるように必死に折っていました。

また、他にお金を増やす(貯める)方法として、講師は「リデュース」・「リユース」・「リサイクル」という言葉とともに、物を大事に使うことの大切さを子どもたちに伝えたり、誰かの役に立つ、やさしいお金の使い方として、「寄付」という言葉を用いて、それをゲームの中に取り入れて、子どもたちに考えさせる時間を与えたりしていました。

ゲームの最後に、残ったお金や実践したイベントの成果に応じて、子どもたちに自分でポイントをつけてもらい、お金の大切さを理解してもらって、講座が終了しました。

